

サケ日本一の町でサケの自然産卵の重要性を伝える

斜里町立知床博物館協力会
事務局 三浦 一輝

1. 事業名および団体名

2. サケ（シロザケ）

→サケ（シロザケ）は重要な水産生物であると共に、他の多くの生物に食べられるなど生態系で重要な役割を果たします。

3. サケ日本一の町 斜里町

→知床半島の半分を含む斜里町では、サケ漁業は重要な基幹産業の一つです。斜里町では毎年多くのサケが漁獲され、市町村別では 17 年連続でサケ漁獲量日本一を記録しています。

4. 斜里町のサケ漁業の現状

→しかし、漁獲量日本一の斜里町においても、近年のサケの漁獲量は北海道や本州と同様に減少傾向にあります。2019 年には、1 万 t を下回る漁獲量となりました。サケ漁獲量減少の原因については現状として明らかではありませんが、町の重要な水産物であるシロザケの資源保全になにか地元でできることはないか？と考えました。

5. サケ資源の保全に大きく関わる 2 つの柱

→日本のサケ資源はこれまで、人工孵化放流事業によって支えられてきました。その一方、近年の研究では孵化放流されたサケだけでなく、川で自然産卵したサケも川に還ってくるサケの数に、ある程度高い割合で含まれることがわかってきました。このため、サケの人工孵化放流と合わせて、自然産卵するサケとその産卵環境を整備することが重要だと考えられます。しかし、サケの人工孵化放流事業についてはすでに高い技術が確立され、重要性の認識度も高い一方で、身近な川で自然産卵するサケの重要性に対する認識度はあまり高くありません。また、町内の川においても、未だダムや堰堤でサケの遡上がしにくい川や、人為的な環境の改変によって産卵に適さない川底環境の川も複数見られます。このため、自然産卵するサケを増やすための川環境の維持、創出にはまだまだ改善の余地があります。

6. 本プロジェクトの目標

→本プロジェクトでは、流域に暮らす人々や河川管理者の方に、サケの自然産卵と水環境の重要性を知ってもらうことを目標とし、教育・普及活動を行います。そして、この活動を通して今後の地域レベルで行える、サケ資源維持のための水環境の保全活動の足がかりとしたいです。

7. 本プロジェクトにおける3つの取り組み

→本プロジェクトでは、具体的に次の3つの教育・普及活動の実施を予定しています。①サケ漁業の現状や自然産卵、そのための川環境の重要性について、専門家の方をお招きして講演会を行います。これにより、多くの人に自然産卵するサケとそのための川環境の重要性を認識してもらいます。②身近な川でサケの遡上や産卵環境の観察会を行います。実際のサケや川環境を見てもらうことで、問題や現状を住民の方々により身近に感じてもらいます。③2020年10月から12月に予定されている、斜里町立知床博物館における“サケ”をテーマとした特別展（観覧無料）に専用ブースを設け、自然産卵の重要性や、これまで斜里町周辺で行政や漁業者が協力して行ってきた川環境の改善のための取り組みについてもまとめ、展示で紹介をします。これにより、①、②に来られなかった方々にも広く内容を知ってもらう機会を創出します。